

ワークショップ：「行動福祉」の理念と研究

養護学校における自発的選択要求の形成

山田 岩 男

名古屋市立滝川小学校（名古屋市くすのき学園：情緒障害児短期治療施設内学級）

今年度の名古屋市の教育目標として「豊かな心と自ら学ぶ意欲を持ち、変化する社会への主体的な対応の育成」が設定されている。この目標に深く関連するこれまでの養護学校での実践の一例を報告し、今後の学校現場における自発的な教科学習行動の形成について検討する一助にしたい。

問 題

一、二の特定遊具で特定の遊びしかしないが、一人で遊ぶことができる児童がいる。しかし、この児童の問題は、教科・領域等の学習内容が極限されるとともに、目の前に置かれた遊具では遊ぶが、それ以外の状況では自分で遊具を取り出したり要求したりしないことである。

そこで、環境への自発的なかわりがけができるようにするため、下記のような実践に取り組んだ。

標的行動：“好み”の遊具を自ら選び出すことができるようにさせる。

方 法

(1) 対象児童：市内養護学校小学1年生男子（平成2年度）。S Q 2 5（I Q 測定不能）。

目の前の“好み”の遊具は取って遊ぶが、それ以外の状況では“好み”の遊具も手に取らず、要求もしない。“好み”の遊具はチリ紙箱と積み木である。

(2) 興味の対象：電車、自動車の絵、写真。積み木、箱などで机の端や床の目などをなぞる。校内の徘徊。

(3) 言語：喃語様の表出音声はあるが、表出言語はない。13語程度の理解言語がある。

欲しい食物があり母親が傍らにいと、時に腕を引き、その手を現物に当てることある。

(4) 実践場所と環境設定：実践場所は教室（図1：8m×11m×2）。遊具展示棚は、90cm×180cmのベニヤ板を横長3段に仕切ったもので、その仕切り棒に遊具を立てかける。この展示棚左上端部の高さ160cmほどの壁に、時計、温・湿度計、指導者の野球帽（体育用）とサンバイザー（校外学習用）がかけてある。

また、当初の展示遊具は、①20cm幅のスポンジ製円・三角形・四角形各1個 ②親族や風景などの写真の型はめ教具30枚 ③長さ30cmのプラスチック製風車 ④雑誌4冊 ⑤しゃぼん玉用具1式 ⑥30cmほどのプラスチック製立て笛1本 ⑦6cm幅ほどの木製積み木5

個 ⑧紙製直径5cmのアンパンマン、ファイブマンパッチ各1個 ⑨幅2cm×長さ30cmほどの角材6本 ⑩画用紙数枚とクレパス1箱

これらの遊具は、4～6月間に対象児童が1度は手に触れた物品である。

(5) 実践時間：朝と帰りの着替え前後計30分、業間15分給食後20分、週3時間の生活単元学習計90分。

(6) 手続き

Training前：保護者との懇談から、両者共通の問題点の一つを解決するために、本trainingを行うことの詳細を得る。

test 1：絵本・チリ紙箱・うちわが目の前のテーブルにあるとき、自発的に取るかをみる。

test 2：ロッカー内の目に見え、手の届く位置に絵本・チリ紙箱・うちわがあるとき、自発的に取るか、要求するかをみる。

Training (a)：遊具展示棚（以下展示棚）にチリ紙箱のみ展示し、それを取り出す集中training。

① チリ紙箱の前、展示棚から70cm以内の取り出しエリアに立たせる。

② 指導者が児童の手を軽く引いてチリ紙箱を取り出す援助をする。

③ 取り出したチリ紙箱で一定時間遊ばせる。

Training (b)：展示棚に(4)の展示遊具①～⑩を展示し、その中に混ぜたチリ紙箱を取らせるtraining。

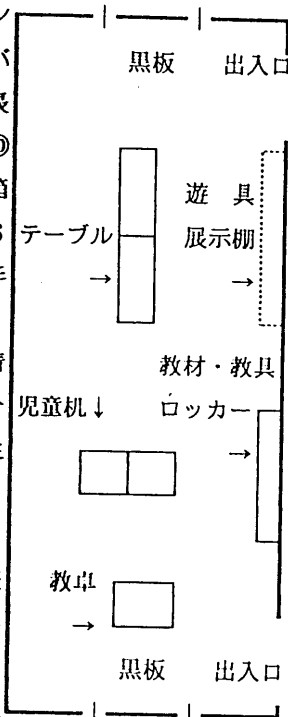
① 展示棚の取り出しエリアに入るのを待って、チリ紙箱の前に立たせる。

② 指導者が児童の体、腕、手を軽く押したり、チリ紙箱を指差すなど援助してチリ紙箱を取らせる。

③ 取り出したチリ紙箱で十分に遊ばせる。

Training (c)：展示物品①～⑩の自発取り出しtraining

① trainingに入る前に展示物品全ての扱い方の例を2回ずつ見せ、展示物品を確認させる。



〈図1：場所の環境〉

